

自社栽培の白神産ヤマヨモギとカワラヨモギから高機能成分 仏・コディフ社と連携協定を締結

>>>2018. 6. 21

株式会社アルビオン(東京・中央区、小林 章一代表取締役社長)は、フランスの化粧品原料メーカー、コディフインターナショナルSAS(フランス・サンマロ、アントワーヌ ジェドワン社長、以下コディフ社)と連携協定を締結いたしました。自社の白神研究所で栽培したヨモギをコディフ社の独自技術で原料化し、より美肌効果に優れた2種類のヨモギエキスの抽出が可能となりました。

【経緯】

アルビオンではかねてより、化粧品の原料や素材にこだわった商品づくりを行なっております。化粧品の核となる新規成分の開発や見直しなど、原料開発において様々な可能性を探るなか、2012年にコディフ社から原料紹介を受けたことをきっかけに取引を開始。2014年にアルゲジェネティック(ワカメエキス)と2015年にパンクラチウムエキス(パンクラチウムマリチムムエキス)の提供を受け、アルビオンブランド「エクシアAL」シリーズの美容成分として配合しています。

原料提供を通じて両社間の関係を構築していくなかで、アルビオンが自社の白神研究所の圃場で原料となる植物を栽培し商品化していることに興味を持ったコディフ社が、白神産のヤマヨモギとカワラヨモギを、オリジナル技術を用いて独自に原料化することを提案。

これにより、美肌効果に優れた高品質の成分の抽出が可能となったことに加え、コディフ社が生態系を保護しながら、生物の多様性を尊重した研究開発を行なっていることなど、研究に対する考え方に共通点が多いことなどから、2014年より本格的にアルビオンとの共同研究がスタートしました。

【連携協定を締結】

これらの取り組みを行なっていくなかで、今後も相互に連携して、有用性植物の探索・評価及び化粧品産業における応用・実用化に関する研究並びに人材育成を推進することを目的に、このたび連携協定を締結。去る6月19日にはフランスのコディフ本社にて調印式を行いました。

右: アルビオン 小林 章一 社長
左: コディフ社 アントワーヌ ジェドワン社長



これまでの白神産のカワラヨモギエキスとヤマヨモギエキスは、化粧品専門店ブランド「イグニス」のスキンケア「ネイチャー」アイテム9品に配合しておりますが、今回のコディフ社抽出のカワラヨモギエキスとヤマヨモギエキスは、同「ネイチャー」アイテムからエイジングケア※に特化した商品として乳液と化粧水の2品に配合し、2018年11月に発売いたします。

※年齢に応じた肌のお手入れのこと

コディフ社とは

フランスの西海岸、世界遺産のモンサンミッシェルに程近い美しい海に囲まれた自然豊かな土地で、海藻などの海洋由来の原料に強みを持ち、生物の多様性を尊重しながら研究開発を行なっている化粧品原料メーカー。天然成分を理想的な形で濃縮抽出するオリジナルの抽出技術「リキシビエーション」を保持し、フランスで特許を取得しています。

【参考】



イグニス公式サイト
<http://www.ignis.jp/>

スキンケア「ネイチャー」アイテム
<http://www.ignis.jp/lineup/yomogi.html>